

みんなとともに笑顔いっぱい



みんなとともに



「個別懇話会」が始まっています。保護者の皆様には、ご多用にもかかわらず、学校へお出でいただいておりますことに感謝いたします。子どもの「笑顔」の実現に向けて、“子どもの事実”をもとに、解決のための“具体的な作戦”を互いに協力して練ることが大切だと考えています。短い時間ではありますが、「大きな成果のあるひととき」になることを願っています。

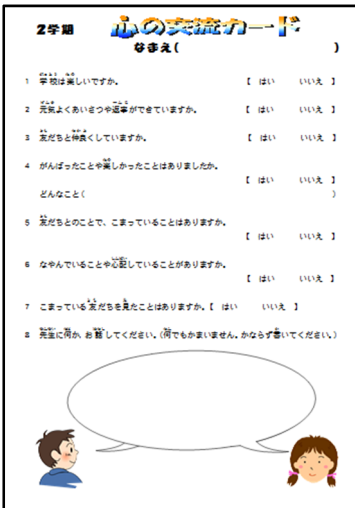


「心の交流カード」を生かした教育相談について

本校では、毎学期1回「心の交流カード」という質問紙を使った調査を行っています。そして、その回答をもとに、気になるところがある子どもと「教育相談」を行っています。

この調査を行うことは、「子どもの心の変化」に早めに気づき、「いじめ」や「不登校」などを未然に防ぐことにつながると考えています。

今回も、子ども一人一人の「心」に寄り添いながら、担任が「悩み」の解決にあたりました。ご安心ください。



- 【「心の交流カード」の質問】 「はい・いいえ」で回答
- 1 学校は楽しいですか。
 - 2 元気よくあいさつや返事ができていますか。
 - 3 友だちと仲良くしていますか。
 - 4 がんばったことや楽しかったことはありましたか。
 - 5 友だちとのことで、こまっていることはありませんか。
 - 6 なやんでいることや心配していることがありますか。
 - 7 こまっている友だちを見たことはありませんか。
 - 8 先生に何か、お話ししてください。(ふきだし)

※ 特に、「5」「6」「7」は、要チェック項目です。また、「8」の自由記述も“情報の宝庫”です。

◇コラム「教育相談2題」 = 解決志向の教育相談 =

“問題”ではなく、“すでにうまくいっていること”に目を向けるのが、「解決のコツ」かもしれません。

「例外」

「まったくいつも勉強しないでゲームばかりしているんだから。」とか「起こされないと起きないんだから。たまには自分で起きたら・・・。」などと、親は言うものですね。私もそうです。でも、実は“できているとき”もあるのです。

この“できている”ときを「例外」と言います。そして、「例外」に目を向けると、見えてくるものがあります。(ザルに残った小石に目を向けるのではなく、ザルの目からこぼれ落ちた砂の中にある砂金に目を向ける、という感じです。)

そうすると、親がほめた後はゲームをしないで宿題をしている、とか、金曜日は自分から起きてくる、とか、解決のヒントになることが見えてきます。“できている”ときを探す方が、楽しいとは思いませんか？

「成功の責任追及」

私たちは、子どもが“失敗”したときには、「どうしてそんなことをしたんだ!」とか「何が原因なんだ!」など、その失敗の訳をしつこく聞きます。

でも、うまくいっているときには、“あたりまえ”と思って素通りしてしまいます。

「どうやってやったの?」「どうしてやれたの?」「なぜうまくいったの?」「誰のおかげなの?」・・・とできた訳を根掘り葉掘り探ると、次につながるヒントが見つかりそうです。

このことを「成功の責任追及」と言いますが、こんな“責任追及”なら受けてみたい気にもなりますね。

